

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来、時代を超えて受け継がれる「自彊の精神」のもと、自ら学び考え行動し他者と協働できる力をもって、変化の激しい時代をたくましく生き抜き、社会に貢献できる人材を育成する。

- 1 全日制普通科単位制における少人数授業などの特色を最大限に生かし、希望進路を実現するための確かな学力を身につける。
- 2 自主性・自律性を重んじ、部活動、生徒会活動およびさまざまな学校行事に取り組み、互いの協力や切磋琢磨を通じて人間力を育む。
- 3 社会に貢献するためのさまざまな素養を身につけ、広い視野を持ちグローバルに活躍できる人材を育成する。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成

- (1) 国公立大学、難関私立大学進学を目標に、自身の進路実現に向け可能性に挑戦し続ける力を養う。
 - ア 普通科単位制の特色を生かし、生徒の希望進路に合わせた教育課程マネジメント、履修ガイダンスを行う。
 - イ 3年間を見据えたキャリア教育、進学ガイダンスを充実させ、生徒の自己理解と意思決定を支援する。
 - ウ 教員の進学指導力向上のための情報共有を図り、教育産業と連携した学力分析システムなどを効果的に活用する。
※国公立・関西難関私大（関関同立）への実進学者数を10年度までに100名以上とする。(R5 63名 R6 66名 R7 66名)
- (2) 学習指導方法のさらなる工夫改善を推進する。
 - ア 研究授業、相互の授業観察を行って授業の改善充実に努め、生徒の授業理解度および授業評価の向上を図る。
 - イ 学習指導要領の評価方法についての研究、新課程大学入試に対応した授業内容の精選など新しい教育課題への取組みを継続する。
 - ウ 授業におけるICT機器の効果的な活用を促進する。
※生徒向け学校教育自己診断「授業の分かりやすさ」の肯定的回答率をR10年度まで85%以上を維持する。(R5 83% R6 87% R7 90%)
- (3) 生徒の進路実現を支援するための学習環境を整備する。
 - ア 生徒が主体的に自学自習する習慣を身に付けるため、校内における学習環境の整備を行う。
 - イ 生徒1人1台端末を用いて、グループウェアでの教材共有、学習支援クラウドサービスでの課題配信などを効果的に活用する。
※生徒向け学校教育自己診断「進路実現に向けた学習への取組み」の肯定的回答率を引き上げ、R10年度には90%にする。(R5 82% R6 85% R7 87%)

2 「主体性・自律性」の醸成

- (1) 学校行事、部活動やその他の課外活動等を通じて、自分で判断し考えて行動できる力を育む。
 - ア 部活動を通して、努力を惜しまず互いに認め合い協力し、切磋琢磨することを通じて成長できる生徒を育てる。
 - イ 体育祭、文化祭、合唱コンクール等を通じ合意形成の進め方を学び、ルールを遵守し他者と協働できる生徒を育てる。
 - ウ 読書活動の支援を通して幅広く教養を身に付け自学自習の精神を育成する。
※ 生徒向け学校教育自己診断「部活動への取組み」の肯定的回答率をR10年度まで90%以上を維持する。(R5 95% R6 80% R7 82%)
- (2) 総合的な探究の時間を充実させ、さまざまな探究活動・課外活動を通じて人権の大切さや多様性を理解する人間性を育てる。
 - ア 人権教育の取組みを通じて、自らと他者を大切にする姿勢を培うとともに、豊かな人間関係を形成する力を身に付ける。
 - イ 地域・他校との交流行事や、外部機関との連携事業への積極的な参加をすすめ、生徒の自己有用感を高める。
 - ウ 国際理解学習、海外語学研修などへの積極的な参加をすすめ、多様性への理解や表現力・コミュニケーション能力の向上を図る。
※ 生徒向け学校教育自己診断「総合的探究の時間の充実度」の肯定的回答率をR10年度まで95%以上を維持する。(R5 96% R6 97% R 98%)
- (3) 安全・安心で魅力的な学校をつくる。
 - ア 支援を必要とする生徒に対し、SC・SSWの積極的な活用を進め、教育相談・生徒支援体制を充実させ、カウンセリングマインドの醸成を図る。
 - イ 生徒の規範意識やマナーの向上を図り、基本的生活習慣の確立を図る。
 - ウ 保護者、地域から信頼され、生徒にとって安全で安心な学校づくりを行うため、保護者および外部機関との連携を一層強化する。
 - エ 本校の魅力、特色および取り組みについて、中学生に対する効果的な情報発信を行い、理解を広げる。
※ 年間30日以上欠席する生徒数をR10年度には20名以下にする。(R5 41名 R6 27名 R7 25名)

3 組織力の向上と「働き方改革」

- (1) 学校の教育課題に対して教職員全員で取り組む気運を高める。
 - ア 各種会議での活発な意見交換により、すべての教育活動および校務運営に関し、全教職員の共通理解のもと行動できる組織を構築する。
 - イ 危機管理能力を向上し、さまざまな事案発生に迅速に対応できるよう、組織的な対応力を強化する。
※ 教員向け学校教育自己診断「教育活動が円滑に進む組織運営がなされている」の肯定的回答率をR10年度には90%以上とする。
(R5 76% R6 80% R7 88%)
- (2) 校務内容の精選、効率化、平準化に取り組む。
 - ア 学習支援クラウドサービス、グループウェアの活用により、教員間の情報共有、業務の連携、効率化をさらに進める。
 - イ 学年、分掌、委員会における業務内容を見直し、業務量の偏りを常にチェックし業務負担の平準化を図る。
 - ウ 時間外労働の縮減に努め、心身の健康に配慮し、働きがいを感じる職場環境をつくるための働き方改革を推進する。
※ 教員向け学校教育自己診断「適正・能力に応じた校内人事がなされ、業務が公平に分担されている」の肯定的回答率をR9年度には65%以上とする。
(R5 52% R6 61% R7 73%)
※ 教員1人あたりの時間外在校等時間（週休日を除く）の1か月平均時間をR10年度には25時間以下にする。(R5 29h R6 30h R7 36h)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕	自己評価
1 「確かな学力」の育成	（１） 国公立大学、難関私立大学進学を目標に、自身の進路実現に向け可能性に挑戦し続ける力を養う。	（１） ア 進路希望に合わせた教育課程マネジメント、履修ガイダンスの実施 イ キャリア教育、進学ガイダンスを充実 ・教育産業による生徒向け学力生活実態調査の活用 of のさらなる推進 ウ 教員の進学指導力向上のための情報の共有化を図る ・教育産業による学力分析システムを用いた教員向け分析会 of の継続的な実施	（１） ア 大学実進学者の目標人数 国公立大学 30 名 〔 23 名〕 難関私立大学 60 名 〔 43 名〕 イ 生徒向け学校教育自己診断「進路指導、ガイダンス充実度」 of の肯定的回答率 90%以上を維持する〔84%〕 ウ 教員向け学校教育自己診断「学校 of の教育課題について日常的に話し合っている」 of の肯定的回答率 90%以上〔90%〕	
	（２） 学習指導方法 of のさらなる工夫改善を推進する。	（２） ア 研究授業、授業相互観察による授業 of の改善充実、生徒 of の授業理解度および授業評価 of の向上 イ 授業おける ICT 機器 of の効果的な活用 of の促進 ・教員相互 of の授業見学週間の設定	（２） ア 生徒向け学校教育自己診断「授業 of の分かりやすさ」 of の肯定的回答率 90%以上〔90%〕 イ 教員向け学校教育自己診断「授業 of の ICT 機器 of の効果的な活用」 of の肯定的回答率 90%以上〔83%〕	
	（３） 生徒 of の進路実現を支援するための学習環境を整備する。	（３） ア 校内 of の学習環境 of の整備 ・自習室（スタディールーム、図書館など） of のさらなる活用促進 イ 生徒 1 人 1 台端末 of の効果的な活用	（３） ア 生徒向け学校教育自己診断「学校 of の施設設備 of の満足度」 of の肯定的回答率 85%以上〔80%〕 イ 生徒向け学校教育自己診断「1 人 1 台端末 of の効果的な活用」 of の肯定的回答率 75%以上〔73%〕	
2 「主体性・自律性」の醸成	（１） 学校行事、部活動 or のその他の課外活動等を通じて、自分で判断し考えて行動できる力を育む。	（１） ア 部活動を通じて生徒 of の主体性、自律性 of の醸成 イ 学校行事、課外活動を通じて生徒 of の豊かな人間性 of の醸成	（１） ア 生徒 of の部活動加入率 80%以上を維持する〔82%〕 イ 生徒向け学校教育自己診断「学校行事への積極的な関わり」 of の肯定的回答率 90%以上を維持する〔92%〕	
	（２） 総合的な探究の時間を充実させ、さまざまな探究活動・課外活動を通じて人権 of の大切さ or の多様性を理解する人間性を育てる。	ウ 読書活動を通じて生徒 of の豊かな情緒 of の涵養 ・毎朝始業時の 10 分読書活動 of の実施 （２） ア 人権教育 of の取組みを通じて生徒 of の豊かな人間性 of の育成 イ 地域、外部連携、国際交流を通じて生徒 of の自己有用感 of の向上 ・水族館・野鳥園との協同調査 of の継続	ウ 生徒 of の朝読に関する意識調査〔知識 of の幅が広がった〕 of の肯定回答率 70%以上維持する〔68%〕 （２） ア 生徒向け学校教育自己診断「命 of の大切さ多様性への理解」 of の肯定的回答率 90%以上を維持する〔95%〕 イ 生徒向け学校教育自己診断「地域交流、ボランティア活動への参加」 of の肯定的回答率 50%	

	(3) 安全・安心で魅力的な学校をつくる。	・海外生徒交流事業の積極的受け入れ (3) ア 教育相談・生徒支援体制の充実、SC、SSW の活用と連携 イ 生徒の規範意識やマナーの向上、基本的生活習慣の確立 ・遅刻指導週間の定例的な実施 ・長期欠席生徒に対する情報共有、家庭連携の組織的対応の強化 ウ 安全安心な学校づくりのための保護者、外部機関との連携の強化 ・SC および SSW の生徒支援委員会への継続的な参加 エ 中学生に対する効果的な情報発信、学校理解の浸透、拡充 ・中学校教員向けの学校説明会の実施	以上[51%] (3) ア 生徒向け学校教育自己診断「相談に応じてくれる先生がいる」の肯定的回答率 90%以上[88%] イ 1日当たりの遅刻生徒人数を10名以下を維持する [8.3名] 年間30日以上欠席する生徒数を25名以下を維持する[25名] ウ 保護者向け学校教育自己診断「学校は家庭との連絡を緊密に取っている」の肯定的回答率 60%以上を維持する[65%] エ オープンスクールへの中学生・保護者の参加総数 1600名以上を維持する[1627名]	
3 組織力の向上と「働き方改革」	(1) 学校の教育課題に対して教職員全員で取り組む気運を高める。 (2) 校務内容の精選、効率化、平準化に取り組む。	(1) ア 全教職員の共通理解のもと行動できる組織の構築 イ 危機管理力の向上、組織的対応力の強化 ・生徒支援委員会の定例的な実施 (2) ア 業務内容の見直し、業務負担の平準化 ・部活動付き添いを含む週休日等の勤務分担の明確化をさらに進める ・部活動指導時間等の見直しなど、教職員の時間外在校等時間の縮減	(1) ア 教員向け学校教育自己診断「教育活動が円滑に進む組織運営がなされている」の肯定的回答率 80%以上を維持する [88%] イ 教員向け学校教育自己診断「問題事象に対する組織的で迅速な対応」の肯定的回答率 85%以上を維持する [90%] (2) ア 教員向け学校教育自己診断「適正・能力に応じた校内人事、業務の公平な分担」の肯定的回答率 70%以上を維持する [73%] 時間外在校等時間が年間 720 時間を超える教職員をなくす [0人]	